

新規事業評価調査書

事業名		服部緑地整備事業
所在地		・豊中市東泉丘他 ・吹田市春日他
事業概要	目的	服部緑地は、昭和16年に久宝寺、大泉、鶴見の各緑地とともに大阪都市計画緑地として計画決定された大阪四大緑地の一つである。大阪府公園基本構想においては「健康と生きがいを支える公園」として位置づけ、豊中市と吹田市にまたがり、千里丘陵の西端に位置する北大阪地域のレクリエーションの拠点となっている。 当緑地は、天然の竹藪、松林と大小10数個の池によって代表される自然環境豊かな公園であり、未整備地も竹林とその景観を保全するために都市計画法55条の指定地とした。しかし近年周辺地域の急速な開発が進む中、未整備地の整備の必要性が高まったことから、今回事業着手し公園整備を進めて、既存竹林を保全し、千里丘陵へとつなぐネットワークの形成を図ることにより、地域の環境・景観の保全やレクリエーション機能の充実、自然環境との共生フィールドの醸成、さらには防災公園としての機能充実を行うものである。
	内容	・都市計画決定面積 142.0ha ・開設面積 126.3ha(H17.3末) ・新規事業認可予定面積 11.0ha 主要な施設 散策園路、草地の広場、竹の散策見本園、自然観察ゾーン (円形花壇、こどもの国、ちかくの森、陸上競技場、プール、野球場、乗馬センター、テニスコート、都市緑化植物園、民家集落博物館、野外音楽堂、レストラン、ユースホテル) 太字は未整備地内の計画施設
	事業費	認可予定区域事業費 約88.0億円 全体事業費 計画約236.0億円 内用地費 約77.0億円 内用地費 計画約102.5億円 工事費 約11.0億円 工事費 計画約133.5億円 土地単価(約7万円/m ²) 工事単価(約1万円/m ²)
	維持管理費	約32百万円/年 既開設区域での管理費 299円/m ² による
	関連事業	・都市計画道路 豊中岸辺線
上位計画等の位置づけ		・大阪府公園基本構想・大阪府広域緑地計画・大阪府地域防災計画 ・大阪府都市基盤整備中期計画(案)・豊中市地域防災計画 ・吹田市地域防災計画
優先度		・周辺地域の急速な大規模マンションなどの宅地開発に伴い、未整備地の貴重な竹林等の自然環境を保全・活用、地域環境や景観の保全を図るために、早急な事業着手が必要となっている。
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	・昭和46年12月 都市計画変更し、追加 ・昭和58年9月 都市計画法55条指定 ・平成17年度 事業認可取得に向けた準備 ・平成18年度 事業認可取得 用地買収着手予定
	完成予定年	平成30年度完成予定

事業を巡る社会経済情勢	事業目的に関する諸状況	<p>都市環境の保全</p> <p>・20世紀に産業発展が生み出した公害と、開発行為により急激に進んだ自然の減少は、都市に住む人々の健康への被害や有機化学物質による環境汚染、生態系への影響、地球温暖化など、自然環境や生活環境はもちろん地球規模での環境への影響にも深刻な問題をもたらしている。一刻も早く適切な対策を講じ、環境優先の視点に立って、環境への負荷を一層低減させ、環境保全を図ることが必要となっている。</p> <p>・新・生物多様性国家戦略(H14.3見直し)の決定や、自然再生推進法(H15.1)、景観・緑三法(H16.12)などの新しい法律が施行されるなど、地域における自然環境の保全・復元や美しい景観、豊かな緑の形成の促進に係る方針や法の整備が進められている。</p> <p>竹林の保全</p> <p>千里丘陵の竹林は、この地域の原風景ともいえる貴重な自然であり、1982年に朝日新聞社と森林文化協会が全国から公募して選定した「日本の自然100選」に、平成元年には府民が投票・選定した「大阪みどりの百選」にも選ばれるなど、この地域を代表する景観となっている。しかし、この竹林も開発の波に飲み込まれて年々失われる状況にあることから、竹林の保全・活用を行い、美しい貴重な竹林景観を後世に伝えて行くことが必要となっている。</p> <p>緑のネットワーク</p> <p>北大阪地域は、周辺の北摂山系、淀川、猪名川と、市街地の中央を貫く中央環状緑地群を緑の骨格として、大規模公園等の緑の拠点やその他の大小さまざまな緑を有機的に結び、連続性を確保している。その中でも服部緑地から千里緑地、北摂山系へと続くネットワークは、淀川緑地軸と北摂山系を結ぶ南北の緑のネットワークであり、大阪府の都市軸であり、景観形成地域として指定されている新御堂筋とも平行しているなど、広域的に重要な緑のネットワークとして位置づけられる。こういった現存する貴重な緑地は、府市連携して守り、つなげて、ネットワークを充実し、持続していくことが重要である。当未整備地は服部緑地と千里緑地を結ぶ重要な結節点となっている。</p> <p>防災機能の付加(避難路、遮断緑地)</p> <p>阪神淡路大震災、東南海・南海地震の発生予測などから、西日本においても住民の防災意識は高まり、防災施設の整備が求められている。</p>
	地元等の協働体制	<p>服部緑地やその中にある都市緑化植物園において、定期的に活動しているボランティア団体は現在8団体あり、それぞれが服部緑地の特性を活かして独自の活動を行っている。主な団体と活動内容として、下記に示す。</p> <p>・竹レンジャー</p> <p>都市緑化植物園で始まったボランティア団体で、竹林を対象として竹林の管理や竹炭づくり、竹を使ったクラフトなど、府民参加のもと月2～3回様々な活動を行なっている。</p> <p>・服部緑地自然を育てる会</p> <p>服部緑地の生き物とのふれあいをテーマとしたワークショップの参加者により設立された団体で、公園の整備や管理手法に関する提案や、府民参加のもと湿地の再生、水環境の回復、昆虫の集まる草地管理など、月2回の様々な活動も行なっている。</p>

事業効果の定量的分析	費用便益分析	具体的な便益内容	受益者	費用便益比	備考
		直接利用効果 健康・心理的な潤い・レクリエーション空間の提供 間接利用効果 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保	公園利用者 周辺住民	B / C = 4 . 2 1 総便益 B=2,231.8 億円 総費用 C= 529.8 億円	算出根拠 国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修「改訂大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(H16.2)による。 都市計画決定区域で算出
	その他の指標 (代替指標)				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全・創出は、地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象や微気象の緩和、大気浄化など、都市生活者にとって重要な生活環境の保全・改善を促進する。 ・公園整備により、地域の人々にうるおいや安らぎ、憩いや癒しの場を提供できる。 ・非常時には、火災の延焼を防止するグリーンベルトや避難広場へつながる避難路となるなど、府民を災害から守り、被害の拡大を防ぐ。 			
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林を活かした緑豊かな空間に草地の広場や休憩所、散策園路等を整備し、スポーツや散策、休憩や自然環境学習などに利用できる場を提供することで、人々のストレスを解消し、心身の健康と活力を増進する。 ・樹林地を整備することで、自然観察や環境学習、維持管理などにおけるボランティア活動のフィールドを提供し、地域活動や府民協働のさらなる拡大や活性化が期待できる。 			
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域の昔なつかしい竹林空間を守り、生物多様性に資する良好な樹林地として整備することにより、美しい竹林景観や生き物、植物などの自然とふれあい、楽しむなど快適な空間を提供し、心身のリフレッシュが図られる。 ・南北に細長い丘陵地という地形を活かし、周辺地域の緑の核になると共に、新御堂筋からの連続性や眺望など、快適な都市景観を形成する。 ・施設や空間の設計にユニバーサルデザインを導入することにより、高齢者や障害者などすべての人々が快適に利用できる。 			
	レクリエーション機能	<ul style="list-style-type: none"> ・主に竹林からなる樹林地をベースとする散策やウォーキング、休養、自然観賞や環境学習など自然とふれあえる静的レクリエーションの場を提供する。 			

(事業名：服部緑地整備事業)	
自然環境等への影響と対策	<p>当地区は、現在十分な管理されていないため、密生し、林内への日差しがさえぎられ、良好な竹林景観とはなっておらず、また下草がないため表土が流され、枯れ木も残されたままの状態となっている。そこで、</p> <p>千里丘陵を代表する風景である竹林を保全することにより、その美しい竹林景観を後世に残し伝える。</p> <p>現況の竹やその他常緑広葉樹林等により構成された樹林地を保全・活用することによって、林床環境の改善を行い、生物多様性に資する良好な樹林を形成し、生き物にとっても棲みやすい自然環境とし、人と生き物・植物とのふれあいの場を確保、復元する。</p>
代替案との比較検討	<p>当対象地は、大部分を占める竹林を保全するため、都市計画法 55 条地の指定を行った地区であり、加えて南北に長い土地形状、丘陵地となった地形等の条件により、施設計画が限定されることから、代表的な整備計画 1 案の作成とした。</p> <p>整備計画は、府で策定した「生き物とふれあえる服部緑地基本計画」(H15)に基づき、生き物や植物など自然の視点に立って、策定を行なった。</p> <p>コンセプト： 千里丘陵のグリーンネットワークの保全と充実 ～生態・景観レクリエーションネットワークの骨格形成～</p> <p>基本方針： <ul style="list-style-type: none"> ・千里丘陵の環境・景観の保全 ・レクリエーションネットワークの形成 ・自然環境と共生フィールドの醸成 ・地域の防災ネットワークの向上 </p> <p>整備計画： 北の森エリア 千里緑地との連携をはかるエリアとし、季節感のある景観形成を行なう。 竹林散策エリア 現況竹林の維持・保全を基本とするエリアで、緑やレクリエーション、防災機能等南北の連続性を高める。 南の森エリア 竹林を背景とした彩り豊かなインテラスエリアとし、自然観察や環境学習、ボランティアなど、府民活動の場を提供する。 </p> <p>施設計画： <ul style="list-style-type: none"> ・草地の広場 2 箇所 区域両端のインテラス部となる草地の広場 ・竹の散策見本園 1 箇所 見本園として種々の竹類を植栽した区域 ・自然観察ゾーン 1 ゾーン 池や樹林地などを活かした自然観察区域 ・散策園路 約 2km 南北をつなぐ主園路や細園路 </p>